

人との絆が身を立てる

【もうかるちや詐欺】

「もうかるちや詐欺」というキャッチコピーをご存じでしょうか？オレオレ詐欺などの特殊詐欺が急増する世の中において、被害防止に向けて効果的に推進する目的で、富山県警が県民から通称名を募集したところ、最優秀作品に選ばれたのが「もうかるちや詐欺」でした。

優秀作品には「たのんちや詐欺」などが選ばれました。ぜひ覚えておいて頂きたいと思います。

ところで、「オレオレ詐欺」や「振り込め詐欺」に代表される特殊詐欺と言われる詐欺行為は、十年以上前から存在しており、各メディアでも毎日のように注意を呼び掛ける報道がなされているにもかかわらず、被害件数が減少するどころか年々増加の一途を辿っているそうです。そして昨年の平成二十六年には、過去最多の被害額を計上しました。その被害総額がなんと、約百六十一億円。そして振り込め詐欺以外の詐欺約一〇八億円を合わせて約二六八億円だ

ったそうです（『警視庁』調べ）。また一説には、昨年一年間だけで五百億円を超える被害総額を出したという発表も出ています。表に出ているだけでも信じられないくらい多額の金額なのですが、当然の事、表に出していない案件もあるでしょうから、「人を見たら泥棒と思え」というのも過言ではない、寂しい世の中になってきたと言えるのかもかもしれません。「オレオレ・振り込め詐欺」以外にも新しい詐欺は毎年のように形を変えて現れています。最近の傾向では、東京に呼び出す「上京型詐欺」あるいは「県外誘導型詐欺」と言われるものが急増しているそうです。親族などを装う電話で地方の高齢者を東京に呼び寄せ、関係者に成り済まして現金を受け取るという、にわかには信じがたい大胆な詐欺の手法です。富山県では北陸新幹線開通に伴い、三月以降急増の恐れがあるものと警戒心を高めていかなければならないのかもしれない。

【家族の絆を深める】

では特殊詐欺にだまされないための対策として、どのような備えをしておけば良いのでしょうか？最低限の対策として考えられるのは、普段の何気な

い家族間での会話などで、「家族の絆を深めておく事」と言えるのではないのでしょうか？息子や孫等を語るオレオレ詐欺犯人からの電話を見破り、被害に遭わずに済んだ人の多くは、「本物の息子（孫）とは声や話し方が違った。話の内容に矛盾があった」などと証言されています。この事からも普段の家族間の連絡頻度や、共有する情報、信頼関係等がオレオレ詐欺等の被害防止と密接に関係していると言えそうです。また、オレオレ詐欺の被害者の約九割が六十歳以上です。特に子や孫世代（二十歳～五十歳代）に当たる方は、自分から両親に頻繁に連絡を取るなどして、両親が被害者にならないよう注意しておくのも大切でしょう。オレオレ詐欺は子や孫に対する親愛の情を利用した犯罪であり、誰でも騙される可能性があるといえます。「私は絶対大丈夫」と思っている人ほど騙されやすいようですので、怠慢にならず、普段のコミュニケーションを大切にしたいものです。

【詐欺の具体的対策】

子や孫の名前を、電話口の犯人に呼び掛ける行為は絶対に禁止です。また名前が本当だとしても、相手は色々調

べ抜いている場合も多いので、名前だけで信じてはいけません。なので、お金を要求する不審な電話に出してしまった場合は、その電話をいったん切ってしまいましょう。その際、電話口の犯人は執拗に食い下がってくるそうですが、「ただいま来客中なので…」とか、「いま手が離せないの、すぐに電話をかけなさい」等、とにかく相手のリズムに乗せられる事なく会話を遮断しましょう。そして、子や孫ら本人に直接電話で確認をとってみるのも大切な事であるいは、電話口の相手が困るような質問を投げかけるのも有効でしょう。例えば「うちの犬の名前は？」等々です。

とにかく、お金を要求する連絡は、殆どが詐欺だと疑って間違いないものと、普段から自分に言い聞かせておきましょう。

【マインドコントロール】

新年早々、魚津市在住のA子さんから相談を受けました。聞けば、「十年來お付き合いのある親友のB子さんと縁を切りたい」との事でした。実は以前から私も、A子さんとB子

さん存じていました。B子さんは五、六年ほど前から更年期障害に加え、精神的な病に冒され生活もままならない状態にあった最中、私自身B子さんから色々なご相談を受けておりました。B子さんと最後にお会いしたのが、ちょうど二年前の春でした。B子さんが長年悩まされ続けた病も、医療機関から「完治した」とのお墨付きを頂き、その時点でご相談も終了させて頂いたという経緯がありました。あれから徐々にB子さんの名前を聞いたのが、今回A子さんから「B子さんと縁を切りたい」というご相談の時でした。B子さんは、A子さんが精気を失って失意のどん底にいた一番辛い状態の時に、甲斐甲斐しく介抱されていた心の拠り所とも言える大親友の一人だったはずで、ですから、また病気が再発し、A子さんを支えきれなくなつての事か？と思いましたが、話を聞いて驚愕しました。

実は、A子さんから「あなたのせいで、私の人生メチャクチャになつてしまった。慰謝料として二百五十万円用意しなさい」と恐喝されていくとの事です。更に、この二年間で

合計一千万円にもものぼる大金をB子さんはA子さんに支払ってきたというではありませんか！言いがかりにも程があります。傍から見れば、完全にたかられている事が容易に分かりますが、B子さんとすれば、「何かがおかしい。でも、信頼している大切な友達の一人だし、A子さんの気が済むなら、これでいい。何とかしてあげたい」という一心で、疑う自分の気持ちに蓋をしていたそうです。年金暮らしのA子さんとは違い、B子さんは毎日汗水垂らして働いています。そんな大切な給料も、老後のためにコツコツ貯金したお金も全てA子さんに貢いでしまい、挙げ句には消費者金融からも貸し付けを行い、実の息子や、妹にも二百五十万円を用立てしてほしいとの相談までしていたというから驚く他ありません。おまけにA子さんは「真成寺の若さんに相談したら、どうなるか分かつてるわよね」と脅されてもいたそうですから、かなり悪質です。それでもB子さんは「はい」と言うしかなかったといえます。これは一種のマインドコントロールと言えるでしょう。先述の詐欺と同じです。人間の情を上手に悪用した方法です。B子さんが裁判を起こしA子さん

を訴えたなら、A子さんは犯罪者になる事でしょう。

ところでB子さんには「A子さんとは金輪際（こんりんさい）お会いしてはいけません。云々。」と今後の方策を伝え、その場でA子さんに電話をかけてもらいました。B子さんは私という後ろ盾ができた事で、自信を持つてハッキリと自分の意志を伝えました。私も直接A子さんに電話口から目を覚まさせるべく努めました。結果的にA子さんとB子さんは、綺麗に縁を切る事ができたのです（今のところ首沙汰無しです）。人は、何時如何なる時に、どう変化するかわからないものです。視点が曇つた時に、その曇りを拭つてくれるのは、一番近くにいる家族かもしれません。身近な家族や仲間達と、本当の絆を構築しておきましょう。清き川に清き水は流れます。心が美しい人と付き合いければ、まず自分の心を磨くことが何より肝心と言えます。人を騙さないために、人に騙されないために、常に自分の心を磨く事を怠つてはいけません。人の悪口を言えば、自分も不愉快になる事を念頭に置いて、良き日々を過ごしたいものです。

合掌 副任職 谷川寛敬

